赤塚中学校区第２回学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

Ｃ・Ｓだより

令和５年１０月３日
三校合同発行

第２回学校運営協議会は、８月４日、赤塚中学校を会場に小・中合同で開催されました。全体会では、各校協議委員の自己紹介や、小・中連携活動の概要について説明がありました。その後、４つの分科会に分かれ、それぞれのテーマに沿って活発な議論が交わされました。今回のＣ・Ｓだよりでは、分科会の様子についてお知らせします。

第１分科会「学習指導」　　テーマ：タブレットを活用した授業

第１分科会では、各校の「タブレット端末を活用した授業」の実践報告の後、「タブレットの活用方法や子どもの実態について」意見交換をしました。

≪赤塚中学校実践例≫

〇体育や英語の授業では実際の動作や英語での会話を動画撮影した。また、グループやペアで改善点の確認をして次に活かした。
〇数学では確率の授業でサイコロの目の出る割合を調べる実験に活用している。
〇その他の教科でも、ロイロノートを使って自分の考えを提出・全体で共有している。

≪木山小学校実践例≫

〇調べ学習や観察記録、総合学習の新聞作りに活用している。
〇社会科では１週間の家庭ごみの記録に活用した。
〇対話的な活動場面での活用も増えてきている。

【各校の実践報告の様子】

≪赤塚小学校実践例≫

〇観察記録、メモ代わりとして活用している。
〇学習の進め方をクラスで共有している。
〇総合学習では、他学年との情報共有に活用している。
〇発表練習や演奏を録画、教師がアドバイスを入力して返信している。

≪意見交換≫

メリット	・写真入りの体裁の整ったものが作りやすく、書くことが苦手な子も楽しく取り組める。 ・記録カードをなくしたり書き直しの大変さがなく、積極的に取り組める。 ・ソフトを使い工夫することで、時間短縮、正確にできる。 ・授業の幅が広がる。
デメリット	・タブレットに集中してしまう。（授業内容に関係ないことに目移り） ・自分で書くことが少なくなる。 ・ドライアイや視力低下の心配。 ・使用の際のルールが難しい。

☆タブレットは便利だが、書く力・聞き取る力は弱まっていないか心配。
　⇒　紙とＩＣＴを状況や必要に応じて使い分けている。
☆タブレットがあると授業は楽しそうだが、先生は大変と感じた。
☆ルールやデジタル・シティズンシップなど、子ども自身が見つけていかなければならないのではないかと思うし、教師も一緒に探していくことが必要とも感じる。時代で変わっていくべき。

等様々な意見があり、活発な意見交換の場となりました。

第２分科会「生徒指導」　　テーマ：いじめへの対応

≪各学校の事例≫

〇いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
〇冷やかし、からかい、悪口、いやだと思うことを言われる。
〇軽くぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
〇失敗や間違いをばかにされる。
〇仲間外れ、集団による無視。
〇ものを隠されたり壊されたり捨てられたりした。　　など

≪対応策やいじめ防止への取り組み≫

〇複数の教職員によるチーム担任制を実施。
〇年３回のいじめアンケートと教育相談を実施。
〇子どもへの支援・指導、保護者への連絡と連携。
〇教職員で情報共有し対応する。
〇道徳教育、学級活動の充実。
〇認め合い、自己肯定感を高め合う教育活動。
〇各種対策会議の実施。　など

≪ＣＳ委員の意見≫

☆いじめを防ぐことも大切であるが、子どもの成長を考えると、いじめが起きてしまった後の対応（自分は何がいけなかったのか。こういう時はどうしたら良かったのか。）を子どもに考えさせることも大事。
☆家庭で子どもとの会話を大事にしている。話すことでコミュニケーション能力も高まり、人の考えも学べる。
☆いじめを防止する土台となるのは子どもたちの心の耕しが大切。それには大人が子どもの見本となるように行動したり、子どもたちと接したりする必要がある。
☆子どもたちの行動を大人たちが正しく評価して価値づけてあげる。それは、すぐに改善されたりされなかったりするかもしれないが、長い目で見守り、子どもたちの心を育ててあげることが一番大事。
☆小・中・地域だけの話し合いだけではなく、幼保の連携も必要。
☆学校で道徳活動（相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを相手に伝えたりする）をしてほしい。
☆地域の大人が、子どもが間違っていることをしたら注意できる環境であってほしい。
☆地域・家庭・学校で子どもたちを見守ることが大事である。

第３分科会「総合学習」　　テーマ：地域学習の実践と課題

◆佐潟クリーン活動について

小中一貫教育の一環として、赤塚小学校、木山小学校の６年生が参加。木山小の児童は泥上げ班、赤塚小では草回収班が人気でした。学校間や先輩後輩間の交流ができ、中学校の雰囲気を知れる場となっています。

≪ＣＳ委員からの意見・感想≫

☆ヨシ集めは袋に入れず紐で束ねて長いまま捨てた方が良いのではないか。

☆今の子どもたちは草取りをする経験が少ないので、草を袋に入れるやり方を事前に教える場もあった方が良いのではないか。

☆授業で観察のかたわら草取り（外来種の除草）ができたら良いなと思った。

☆地域とのつながりが濃い活動だということが印象的だった。

◆地域連携を中心とした総合学習の取組（各校の報告）

≪木山小学校≫

○地域の方々の協力を貰いながら、サツマイモ栽培（３・４年生）とスイカ栽培（５年生）を通して地域を知る学習、木山で生きる人々（キャリア教育／５年生)、佐潟・砂丘を知る学習（５・６年生）にそれぞれ取り組んでいる。

○今年度新たな取り組みとして、新潟国際情報大学の小宮山先生のご協力により、栽培収穫したものを「ハネモノ市」で販売させていただいた。

○佐潟の学習では、学習成果をまとめたポスターを制作したが、それを活かせる場がなかった。学んだことをどう地域に還元していくか、地域の方との交流が今後の課題として挙げられた。

≪赤塚小学校≫

○スイカ栽培を通して赤塚の自慢を見つける学習（３年生)、子どもたちにとって身近な佐潟や砂丘（４年生)、佐潟ハス復活プロジェクトで佐潟の蓮についての学習　（５・６年生)。佐潟の水位を下げて蓮を植える作業を行った。

○自分たちで作った歌「佐潟とともに」を今年の佐潟まつりで披露。

≪赤塚中学校≫

○中学校では SDGs に取り組み、４年ぶりに職場体験が実施できた（２年生)。地域内の１３事業所へ出向いて体験。

◆全体を通して委員からのご意見

☆「新潟砂丘」がこの地域の学習に大きなテーマとなっていて、地域の特色を活かして取り組んで欲しいと思っている。

☆他地区に比べてこの地域は地域資源が豊かなところである。佐潟の環境保全について子どもたちにもっと学習で取り組んで欲しい。点在する地域資源を線で結び、子どもたちが郷土愛をもてるよう、小中連携でマネジメントしていけたらと思っている。

第４分科会「学校保健」　　テーマ：心の健康、自己肯定感の育て方

◆養護教諭による、自校の小学校６年生と中学１～３年生を対象に行ったストレスチェックの結果報告

≪木山小学校≫

児童数が少ないため、傾向とすることが難しいが、自己同一性が低かったり、漠然とした不安が強かったりする児童がいるものの、日々の生活での満足感や他者への信頼感が高いという結果になった。不安を感じながらも、現在や将来の楽しみに目を向けながら、周りの助けで乗り越えられているケースが多いと推測される。

≪赤塚小学校≫

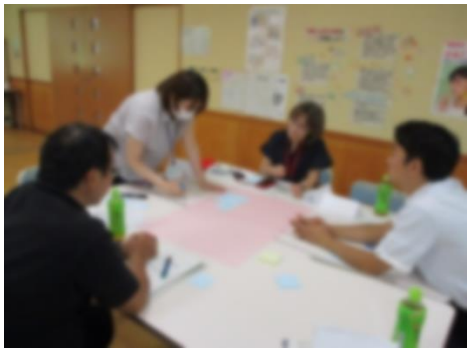
自己同一性が低く、漠然とした不安を抱えている児童が多く、また、なかなか他者に信頼感をもつことができないと感じている傾向がある。児童にとって『話しやすい環境』を整えていく必要性があると考えられる。満足感については、習い事や好きなことに打ち込む楽しさを強く感じることができているようである。

≪赤塚中学校≫

小学生と比較すると、全体的には自己同一性が進んでおり、漠然とした不安が小さくなっている。学年が上がるごとに自己同一性が低くなっている傾向があるが、これは受験勉強を機に、自分と向き合うことが必要となるため、心理的に揺れ動いていることが要因であると考えられる。また、１・２年生と比較して、３年生で『おとなになったらやってみたいことがある』と回答した生徒が多く、将来の楽しみを見出すことができていると捉えられる。

◆ Ａ・Ｂ２つのグループに分かれてのインシデント・プロセス法による架空の事例検討グループワーク

Ａグループは、「夜遅くまでSNSをしており、学校生活への適応がうまくできずに困っている子ども」、Ｂグループは、「他人の目が気になり、集団で関わると体調不良を起こして困っている子ども」という設定でした。

Ａグループ・Ｂグループとも、教員、保護者、子育てを経験した地域の方、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。事例は異なっても、どちらのグループでも「親子の関わりの時間を増やす」「活躍できる場を用意し、できたことを認め、ほめる」「得意なことを生かす場をつくり、自信をもたせる」「今のままのあなたでいいんだよと、存在を認めていることを伝えてあげる」などが大切であるという結論になりました。

分科会を終え、養護教諭からは、「学校教員だけでは気付かなかった視点からご意見をいただいてとても参考になった。」「これからの支援に生かせる話し合いだった。」ＣＳ委員からは「親として、上から目線でしか考えないところがあるが、目線を下して接することも必要なんだと気付かされた。」という感想が聞かれました。